

学校教育目標
・めざす子ども像

「自ら学び、心豊かでたくましく、未来を切り拓く三谷っ子の育成」
みずから学び、自分の言葉で表現する子 たくましい体を持つ子 につこにご笑顔で、思いやりのある子 こきょうを大切にする子

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
①教育課程・学習指導	児童一人一人に基礎的基本的な知識と技能の習得を図り、根拠や筋道を明確にし、表現する力を育てる。	書く活動を各教科の授業に意図的に取り入れ、相手を意識して自分の考えを伝えたり、表現したりする力を高める。	教務主任	全学年を通して、学習に向かう意欲は高く、落ち着いて学習に取り組んでいる。しかし、条件にそって「書く」力に個人差が見られる。「書く」「話す・聞く」のスキルを高めながら、自分の思いを表現する力を育てていく必要がある。	【成果指標】 各教科の学習やばげみの時間の課題の中で、条件に沿って文章に表し、自分の考えやまとめた事柄を相手に伝えることができる。	自分の考えを条件に沿って文章に表し、相手に伝えることのできる児童の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、個別の指導や補充学習を実施し、取り組みの内容を改善する。	学期末に児童・教職員を対象にアンケートを実施する。
	国語科を核として学び合い学習の充実を図り、児童が主体的・協動的に課題を解決する力を育成するために、組織的・継続的に教師の授業力向上に努める。	全学年研究授業を行うとともに、各教科の授業に、ねらいを明確にした学び合いの場を設定し、児童の思考をつなぐための教師の関わり方を工夫する。	研究主任	どの学年においても、ねらいを明確にした学び合いの場を意図的に設定した国語科の授業が実践できるようになってきたものの、学び合いにおける教師の関わり方や振り返り、学習評価の工夫については課題がある。	【努力指標】 主体的・協動的に課題を解決する力の育成に向け、ねらいを明確にした学び合いの場を設定し、児童の思考をつなぐための教師の関わり方を工夫することができる。	児童の思考をつなぐための教師の関わり方を工夫し、学び合いを充実させることができた教員の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、研究先進校の取り組みなどをもとに、指導法や取り組みの内容を改善する。	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。
	読書習慣を確立し、読書量の確保と読書内容の向上を図る。	「朝の読書」「読書ノート」を継続して取り組む。個人の力に応じた個別指導を行う。「おすすめのブックカード」等の活動を通して、必読書「宝石シリーズ」の目標冊数達成をめざす。	図書館指導担当	「読書ノート」については、冊数やページ数があまり進まない児童がいる。また、高学年になるほど「宝石シリーズ」の目標冊数の設定が難しい面があるが、達成までに届かない児童もいる。	【成果指標】 「読書ノート」に記録したり、「おすすめのブックカード」等からヒントを得たりして、「宝石シリーズ」の学年の目標冊数を達成する。	「読書ノート」と「宝石シリーズ」が、学年の目標冊数を達成することができた児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、取り組みの方法を再検討する。	毎月の読書ノートや宝石シリーズ達成表で進み具合をチェックし、全体や個別に働きかける。
②生徒指導	縦割り活動を推進し、コミュニケーション力を中心としたよりよい人間関係を育成する。	集団登校や清掃、縦割り交流活動、児童集会、運動会等でねらいを明確にした縦割り活動を行う。	生徒指導主事 児童会担当	あいさつ運動や集団登校、縦割り活動等を通して、良好な人間関係が育まれている。縦割り活動だけでなく、休み時間など日頃から異学年と触れ合う機会も多い。	【成果指標】 学級の友達や他学年の友達と仲良く活動することができる。	学級の友達や他学年の友達と仲良く活動できた児童の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、取り組みの内容を再検討する。	学期末に児童を対象にアンケートを実施する。
	全教育活動活動において生徒指導の3機能を活かす。	学級づくり・授業づくり・学校行事等で、ねらいに、生徒指導の3機能を明記し、実践に活かす。少人数の学級づくりについて研修会を開催し、実践に活かす。	生徒指導主事	複式学級や少人数学級のため人間関係が固定しがちである。自己決定、自己存在感、共感の人間関係の点で、指導が必要な場面が見られる。	【努力指標】 学級づくり・授業づくり・学校行事等で生徒指導の3機能をねらいを位置付け、意識して取り組むことができる。	生徒指導の3機能のねらいを意識した取り組みができた教員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CDの場合は、取り組みの内容を再検討する。	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。
③進路指導 キャリア教育	ゲストティーチャーから地域のよさを学び、将来の夢や目標、よりよい生き方をめざす気持ちを高めようとする心を育てる。	全学年において、地域の「ひと・もの・こと」を題材にしたふるさとへのよさを学ぶ学習を取り入れる。	キャリア教育推進教師	児童アンケートからは、「地域のことがとても好き」と回答した児童が90%を超えている。豊富な地域の人材を活用し、生き方を学ぶことを通じて、より一層目標に向かって自己を高めようとする気持ちを育てたい。	【努力指標】 様々な教育活動の場に、計画的に地域の方々をゲストティーチャーとして招き、授業をすることができる。	ゲストティーチャーを招き、地域のよさを学ぶ授業が A 年間を通して4回以上 B 年間を通して3回 C 年間を通して2回 D 年間を通して1回	CDの場合は、取り組みの内容を再検討する。	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。
④安全管理	危機管理意識を高め、防災教育の充実を図り、安心・安全な学校づくりをする。	避難訓練だけでなく、災害や不審者から身を守るための教職員の研修会を開催する。	教 頭	年3回実施した避難訓練では教師の指示に従い「おはしも」を守って迅速に避難できた。災害時や不審者に遭った時、自分の力で自分の身を守ることができるような児童に育てたい。	【努力指標】 教職員を対象にした防災・防犯に関する研修会を実施し、教職員の危機管理意識を高めることができる。	教職員対象の防災・防犯に関する研修会を高まった教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CDの場合は、取り組みの内容を再検討する。	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。
⑤保健管理	児童の健康増進に向けた運動の習慣化を図り、バランスの良い体力の向上を目指す。特に柔軟性の向上を図る。	体育科の体づくり運動やスポーツ、体育的行事を通して、児童の運動機会を確保し、体力の向上を図る。	体育担当	休み時間には体を動かして遊ぶ児童が多く、運動が習慣化している児童が多い。改善はされてきてはいるが、全体的に長座体前屈に見られる柔軟性が劣っており、体力のバランスが悪い傾向にある。	【成果指標】 年間2回体力テストを実施し、2回目の体力テストにおいて、各体力要素48項目中38項目(8割)以上H27年度の県平均記録の突破を目指す。	10月の体力テストにおいて、各体力要素48項目中、H27年度県平均記録を突破した項目の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CDの場合は、取り組みの内容を再検討する。	5月と10月に体力テストを実施する。
	心身の健康に関心をもち、自己管理能力を高める。特に正しいメディアとの付き合い方を知り、規則正しい生活習慣の定着を図る。	健康生活チェック等で児童の実態を把握し、生活習慣の定着を図る。また学校保健委員会ではメディアと視力の関係などについて学習する。	養護教諭	春の視力検査の結果、視力が0.9以下の児童の割合が3割近くいた。さらにその中の半数以上が昨年度よりも視力が下がっていた。また、昨年度のアンケートから、1日3時間以上テレビやゲームを使用するという児童の割合が増えている。	【成果指標】 児童がノーメディアデー等の取り組みを通じて、規則正しい生活習慣が身につく、自己管理能力を高めることができる。	ノーメディアデー等を実施し、規則正しい生活習慣が身についた児童の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CDの場合は、取り組みの内容を再検討する。	健康生活チェックを集計する。学校保健委員会でテレビ・ゲームと視力の関係について学習する。(7月・11月に児童アンケートを実施する。)
⑥特別支援教育	特別支援教育の研修を深め、児童の特性理解と指導法の工夫、改善に努めるとともに、校内支援の定着と継続を図る。	計画的に他機関や保護者との連携を図り、個に応じた支援を継続するために、校内委員会や研修を行う。	特別支援教育 コーディネーター	校内委員会を中心に全教職員で研修会を行い、児童理解や指導法の工夫、個別の支援について共通理解を図っている。気になる児童の継続した支援体制の構築に向け、取り組みを進めている。	【努力指標】 個に応じた支援の実態を定期的に記録にとり、児童理解と継続した支援の充実が図ることができる。	児童理解、個に応じた指導支援を工夫し、継続した支援に努めた教員の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、取り組みの内容を再検討する。	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。
⑦組織運営	組織的な学校運営に努め、学校評価を機能させ改善に活用する。	学校評価の年間計画に基づきPDCAサイクルで常に改善に活用する。	教 頭	各学期末にアンケート調査を実施して学校評価に活用している。学校評価の結果をPDCAサイクルを通じて、改善すべき点を明確にし、共通理解しながら実践している。	【努力指標】 学校評価の年間計画に基づき、PDCAサイクルを踏まえ、常に改善に努める。その中で共通理解・共通実践を図りながら組織的・効率的な学校運営に努める。	組織的、効率的な学校運営に努めることができたと感じる教職員の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、取り組みの内容を再検討する。	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。
⑧研修	複式授業や特別支援教育の研修を深め、指導法の工夫を図る。	計画的に研修会を設定し、先進校の実践や専門相談員に学び、児童や学級の実態に応じたきめ細やかな指導をする。	教 頭	今年度より算数科において「わたり、ずらし」を含む複式授業を実施している。複式授業のみならず、特別支援教育においても先進校の実践に学びながら、児童や学級の実態に応じたきめ細やかな指導を実践できるよう取り組みを進めている。	【努力指標】 複式授業や特別支援についての研修会を通じて学んだことが教員の指導力向上に活かされている。	研修会で学んだことが教員の指導力向上につながったと感じる教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、取り組みの内容を再検討する。	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。
⑨保護者 地域との連携	保護者や地域に教育活動を公開するとともに、情報を共有し連携を図る。	フリー参観や授業参観、学校だよりや学級だより、HPなどを活用して学校の様子を知らせる。	教 頭	学校だよりや学級だより、HP等を活用して学校の様子を家庭・地域に発信している。また参観日等の出席率は非常に高く、育友会活動に対しても協力的な保護者が多い。	【満足指標】 HPや学校だよりなどを通じて教育活動を公開することにより、保護者や地域の人々がその内容を知っている。	HPや学校だより、学級だよりなどを通じて教育活動の内容を知っていると答えた保護者の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、取り組みの内容を再検討する。	7・12月の保護者アンケートで調査する。
⑩教育環境整備	校舎の環境整備に努め、安全安心な学習環境の充実を図る。	効果的な掲示や、安全で学習効果を高める環境を整備する。	教 頭	計画的な安全点検を実施し、校舎内外の環境整備に努めている。学校全体の環境整備については育友会や、教育後援会、同窓会などと連携して整備に当たっていく。	【努力指標】 安全点検を実施し、安全で効果的な校内外の環境整備となるよう努める。	安全で効果的な学習環境の整備に努めることができたと感じる教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、取り組みの内容を再検討する。	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。